（様式３）

自 己 評 価 結 果 票　（ユニット１）

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域福祉に貢献できるように理念をあげている。（法人理念に準じている）	○	施設理念も考え、実践に心がけている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をスタッフルームなど、常に目につく所に掲示し、職員の名札の裏にも記載し携帯している。また、新人職員に対して朝礼等で確認をしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所時に家族又は地域の方々が見学などされた折に理念の説明をしている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶を交わしたり、近隣の方々から野菜や花などを頂くなど日頃からお付き合いを持てる事ができている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の行事の時は、老人会の方々や地域の方々に声掛けをし、参加していただくように努めている。	○	・子供との交流の機会を検討していきたい。 ・老人会や地域の方々の交流が減ってきているので　、参加を呼びかけたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域の人々との交流については話合っている。地域の暮らしに役立つことがないかの話合いはできていない。 ・運営推進会議への参加をお願いしている。	○	地域の高齢者の暮らしに役立つことは、今後色々学んで取り組んで生きたい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員で自己評価や外部評価について話合う機会をもち、改善につて話合う機会を持っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスへの事実、評価への取り組みを報告し話合いもできているが、サービス向上に活かせていない。	○	サービス向上のために取り組んでいきたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町担当者などに相談など行うようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、少しならわかっている方がいるが、それを活用できるように支援はしていない。	○	研修会に参加し、権利擁護事業や成年後見制度について理解し、必要な方に活用できるよう支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされる事がないように注意を払っていが、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会は持てていない。	○	今後勉強会などを開いて知識を身につけていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約する際は、利用者や家族などの不安、疑問点をたずね十分な説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員に表す機会を設け運営に反映させている。外部者への機会は少ない。	○	外部者にも機会を設け、利用者が意見、不満、苦情を表せるようにしたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、手紙を利用者の家族に送付し健康状態や生活状況を報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等で家族の意見、不満、苦情を受けるようにしている。施設に意見箱を設置。	○	外部者にも機会を設け、家族が意見、不満、苦情を表せるようにしたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	朝の申し送りや1ヶ月に１回会議を開き話合いや勤務の調整に努めている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように異動や離職を必要最低限に抑える努力をしている。		
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立てている。法人内の研修は少ない。	○	研修に参加させる人員を増やしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持っている。また、ネットワークづくり、勉強会など、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫は取り組んでいるが、あまり効果は上がっていない。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し向上心を持って働けるように心がけている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、本人と個別で話すように設定している。ケアマネジャーの協力も得られるようにしている。言葉での表現とは違う思いを探るように努力はしているが、認知症の程度により困難な場合もある。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設内で相談を伺う以外に、自宅等への訪問も行い話を聴く機会を設けている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーとも連携して対応できるサービスの調整、サービスの提案を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	慣れるまで家族の方と日中一緒に過ごしたり、利用日数を週１日から始め、段階的に日数を増やしていくなど家族と相談しながら行っている。	○	日中、家族と過ごす場合に利用者と家族が一緒に食事が取れるなど工夫をしていきたい。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に食事作り、家事を行う中で昔からの生活の知恵などを教わり、また、余暇活動や散歩などでは楽しみを共有しながら日々の介護を行っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や来所時に利用者の近況報告を行い、意見を伺ったり、行事への参加を呼びかけたり利用者、家族、職員で時間を共有できるように努めている。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者や家族の状況を考えて外出や外泊を勧めたり利用者が書いたぬり絵や習字を見ていただき、利用者と会話がやりやすい状況をつくるなど、よりよい関係の支援に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がこれまでに生活していた地区へ外出し、買い物をしたり食事をしてりしている。	○	特定の利用者に片寄らないように工夫して実施していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者のやりたい事や特性を把握して他の利用者と一緒に出来る作業は共同で行ってもらい、なるべく孤立しないように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近隣の施設に移られた利用者に、施設で親しかった利用者と一緒に職員が訪問するなど利用後の付き合いも大切にしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で会話や行動から利用者の思いの把握に努めている。	○	症状の悪化、機能低下に伴い困難なこともある。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家人、ケアマネジャーにも協力を得ながら経過把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	医師、看護師、リハビリ職員他からも情報を得ながら現状把握に努めている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケア会議にて家人からの要望も考慮して計画を作成している。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	６ヶ月に一度の計画書の作成	○	見直しは、その都度行っているが記録としては不十分であり業務日誌ぐらいでの記録でしかない。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、業務日誌に記入し、ケース会議で確認している。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望には、出来るだけそえるように対応している。	○	隣接医療機関以外の診察付き添い。
4．より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会の交流行事参加や運営推進会議での利用者状況の確認を行う。		
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設施設でのサービス利用や介護用品購入の際の業者の紹介などを行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて話合いの場を設けている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望があれば入所前のかかりつけ医に受診できるように支援している。緊急時には、併設している診療所で受診できる体制を取っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者が認知症に詳しい医師に治療や相談できるように支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師に相談しながら日常の健康管理や医療活用を支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	併設している診療所に入院した時は、職員が毎日交代で洗濯物を取りにいき、その際に診療所の職員と情報交換を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、利用者、かかりつけ医と話合いを行い全員で方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関、家族と話合いをしながら支援に取り組んでいる。今後の変化に備えて検討や準備も行っている。	○	ターミナルケアでのより一層の勉強会の実施。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の生活状況をし、十分な話合いを行い住み替えによるダメージを防ぐように努めている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に接する時の言葉や対応に注意を払っている。また、個人情報漏洩防止に努めている。		職員間で声掛けおこない、言葉遣いなど注意している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	複数の提案を行い、その中より利用者が選択できるようにし、利用者が納得して暮らせるように支援している。		食事作り、おやつ作りなども利用者の希望を取り入れてメニューを考えて利用者と一緒に作っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりの希望に沿って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に一度、理容師の訪問日を設けている。本人の希望があれば、かかりつけの理容、美容院に行けるように努めている。		入浴後の髪のケアや希望があれば顔のケアも行っている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 　食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付け時には声掛けをし利用者に手伝ってもらっている。		
55	○利用者の嗜好の支援 　利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特別な場合以外、外出時等で購入できるようにしている。家族に持ってきてもらうこともある。		
56	○気持よい排泄の支援 　排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人にあった排泄介助を心がけている。使用物品も検討している。（パット、おむつ、はくパンツ）		排泄チェック表の作成
57	○入浴を楽しむことができる支援 　曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ希望にそえるように調整している。		
58	○安眠や休息の支援 　一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人に応じた居室環境を整えている。和室で休まれる人もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 　張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に合ったこと、料理の手伝いや家事手伝い、草むしり等をしてもらい支援している。	○	個々での対応をもっと充実させたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族了解のもと、外出や買い物時に利用している。		利用者同士のトラブルにならないよう気をつけている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、外出など行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月１回は、外出計画を立てている。家族にも参加のお知らせをしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話の利用が可能。家人からの電話もとりつぎを行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項説明書にも記載している。	○	具体的項目の確認は不十分である。勉強会にて取り上げる予定。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関を手動としている。利用者によっては居室の鍵を必要としている人もいる。安全確認はとれるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に入っているときは、さりげなく様子を伺いに行き常に利用者の所在や様子を把握している。場合によってはマンツーマンで対応している。夜間も定期的に巡回している。		夜間は居室の鍵をかけないように声掛けをする。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の状況にあわせて、その利用者にとって危険なものは目につかない所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	インシデント・アクシデント報告を会議で全職員に伝え、改善を話合って事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ＡＥＤ講習に参加するなど医師、看護師からの指導を受けている。しかし、状況によってはどのような対応ができるのか不安な面もある。		夜間帯での急変も起こりうるので医師、看護師による勉強会を行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会には、事前に協力をお願いしており近隣施設とも連携を図れるようになっている。定期的に利用者参加の避難訓練も実施している。	○	夜間を想定した避難訓練の実施。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者のリスクにつて説明し、安全面を配慮しつつ抑圧感のない暮らしが出来るように話合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各個人の普段の様子を把握し、常に変化、異常の発見に努めている。		
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を確認できるようにケースファイルに綴じており、個別に把握できるようにしている。		服薬間違いは、特に気をつけている。
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつにヨーグルトなどを取り入れたり、１日１回の体操や散歩を行っている。また、医師、看護師にも相談しアドバイスをもらっている。	◯	水分をよく摂らせている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがいの介助や声掛けを行っている。義歯の洗浄や場合によっては隣接する歯科への受診も行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養管理や水分補給もかねたお茶の時間の設定や食事量、水分量のチェックを行っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルの作成、職員のインフルエンザ予防接種の実施、手洗いの徹底を行っている。	○	手すり、ドアのノブなど不特定多数の人が触れる所を朝、夕１日２回消毒を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒や週３回献立表に基づく適切な食材量によって鮮度の保たれた安全な食材を確保している。定期的な食材のチェックも行っている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープや手すりの設置。玄関周辺に花を植えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示板に季節の飾り付けやカレンダーを貼ったりしている。また、消臭剤や空気清浄機を使用している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを設置したり、談話コーナーをリビングに設けたりして居場所の工夫を行っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具などは馴染みのものを持ってきてもらうように話をしている。居室に利用者の家族の写真を飾ったり作品を飾ったりしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節など適時対応し、ホールの換気や消臭剤の設置など生活環境に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活導線に必要なところに手すりを設置し、全館バリアフリーになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札を一人ひとり違ったものを作成している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周に植込みをしたり、２階のベランダを利用して七夕会やそうめん流しなど季節に合わせて利用をしている。		

（　　部分は第三者評価との共通評価項目です　）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目　(ユニット1)

項　　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○　①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○　①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○　①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○　①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　　目		取　り　組　み　の　成　果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)